

神経障害性疼痛関連歯科学会合同シンポジウム2026

歯科治療後神経損傷と三叉神経痛 病態の違いを考える！ —その対応法を再考—

期日：2026年3月22日（日）10:00～17:00
ZOOMによる講演配信と討論のライブ配信
(オンデマンド視聴可能期間：終了後約2週間を予定)

参加費：7000円（6学会会員）

非会員10000円

申込先：日本口腔顔面痛学会事務局
(担当：臼倉)

jsop_seminar@onebridge.co.jp

申し込みの方には、メールで登録番号をお送りします。

主催：日本口腔顔面痛学会
共催：口腔顔面神経機能学会
日本口腔外科学会
日本歯科麻酔学会
日本歯科薬物療法学会
日本歯科心身学会
(五十音順)

プログラム

Part1(10:00-12:30) 座長：坂本英治

- 下顎智歯部の非歯原性疼痛の特徴と下顎智歯抜歯の適応について（山城崇裕）
- ニューロパチーの検査・診断・治療方針（高田 訓）
- 慢性化、複雑化した疼痛や違和感に対する歯科心身症的対応（梅田陽二朗）
- 三叉神経系ではadrenomedullinシグナル軸が優位なのか？（瀧川義幸）

質疑応答・総合討論 コメンテーター：村岡 渡

Part2(13:30-17:00) 座長：福田謙一

- 三叉神経痛の診断と治療戦略 —臨床研究から紐解く歯科医師の重要性と役割—（野口智康）
- 典型的三叉神経痛のイメージング（照光 真）
- 顔面痛診療における微小血管減圧術の役割 —解剖学的背景、手術適応、そして外科治療の実際—（小杉健三）
- 三叉神経痛に対する歯科麻酔学的対応（椎葉俊司）
- 三叉神経痛治療の第一選択薬カルバマゼピン —その薬理作用をあらためて整理する—（李 昌一）

質疑応答・総合討論 コメンテーター：臼田 頌